

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0172901522 | | |
| 法人名 | 有限会社 ライフサポート | | |
| 事業所名 | グループホーム 愛あい | | |
| 所在地 | 旭川市川端町2条5丁目2番3号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年3月7日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172901522-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット |
| 所在地 | 札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401 |
| 訪問調査日 | 平成29年2月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは旭川駅より10分程度の住宅街に所在し、周りにはよく手入れのされたお庭や菜園畑があり、懐かしい感じのする地域です。お散歩をしていると、お花やお野菜を頂いたり地域の方々ともなじみの関係を築いています。
又、当ホームでも菜園を作り、車椅子の方でも作業ができるように工夫しています。収穫されたお野菜を、普段の料理に使い入居者の楽しみとなっています。夏祭りの行事で焼肉パーティーの時にはご家族と一緒に食事をできるようにしたり、マンネリ化しないようにしています。又、地域の学生の方々との交流を大切にしています。地域の小学生を受け入れたり、高校生ボランティアを受け入れたり、教育大学の吹奏楽部によるコンサートをホームの前庭で開催し、ご家族や地域の方々と一緒に楽しんだりしています。平成20年よりデイサービス開始、ファミリーハウスを併設し、多機能に対応できるような施設となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム愛あい」は、旭川川端町の国道40号線から少し入った住宅地に立地している。平成20年に、あらかじめ食事や薬の管理等をさせて頂く事で要介護にならない様支援する事を目指しファミリーハウスを併設し、デイサービスを開設して現在2名の利用者がデイサービスを利用している。開設時に施設長が作成した理念には、住み馴れた地域の家庭的な環境の中、のんびり、ゆったり、和気あいあいとした暮らしの提供が掲げられており、「グループホーム愛あい」の名前の由来にもなっている。事業所には2名の看護師が在籍し、利用者の健康管理を担い利用者、家族の安心感に繋がっている。地域住民との交流も地道に取り組み、地域住民に声を掛け、毎年、教育大学吹奏楽部のコンサートを前庭で開催している。施設長、管理者、職員は利用者の暮らしがより良くなる為にはどうしたら良いかを常に模索し前向きに検討を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 | | 項目 | 取り組みの成果 | |
|---|------------|---|--|------------|---|
| | ↓該当するものに○印 | ↓該当するものに○印 | | ↓該当するものに○印 | ↓該当するものに○印 |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念の中に「地域や自然に触れ合いながら、ご家族や町の人々との行き来を大切にします」との項目を設けている。又、それをホーム内に掲示したり、職員会議等で職員に周知徹底をしていて、定期的に理念を記憶しているかの確認もしている。 | 開設時に、地域の中で利用者をゆったり、のんびり和気あいあいと支えて行くとの意を取り入れた理念を作成し、廊下や事務所等目に付く所に掲示し周知を図っており、会議時に振り返りながら理念の実践に努めている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の町内会に入会し、町内の役員の方々にもパンフレットや運営規定等を配布している。又、日常の散歩等で、地域の方々からお花やお野菜を頂いたり、困っている方の除雪の手助けをして交流している。 | 町内会に加入し総会や、観楓会等に理事長が参加し、事業所の理解に努めている。気候が良い時には町内を散歩し、花畑の花やお野菜を頂いたり、介護相談を受けたりと地域に根差した事業所となっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域にある学校の学生と交流を行っている。小学生の施設見学、高校生の実習受け入れ、大学生の吹奏楽コンサート開催等を通して地域に貢献している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員会のメンバーの日程調整が困難であるが、2か月に1回開催している。会議の中で行事のDVDを観ていただいたり、出席していただいたご家族には写真をプレゼントしている。又、ご家族全員に会議録を配布し関心を持っていただけるようにしている。 | 利用者家族、町内会役員、地域包括支援センター職員、時には、消防署職員、協力医療機関職員が参加して、2か月に一度、定期的に開催している。会議案内は手渡しや郵送で全家族に参加を促すと共に、会議議事録も全家族に配布している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 定例の報告を行い、法令等を遵守するため、ホーム運営について相談したり、実地指導時に指導された事項について、検討し改善したりしている。 | 行政とは、報告や何か相談事がある時は相談し連携に努めている。地域包括支援センター主催の研修会等には積極的に参加する様に努めている。地域包括支援センター主催の町内健康サロンで事業所の紹介があり、事業所見学も予定されている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 契約書において具体的内容を掲示し身体拘束を行わないことを明記している。又、身体拘束に向けての取り組みをホーム内に掲示し、いろいろな危険が予測される場合は、職員会議や引継ぎ等で拘束しない方法を検討している。リビングには必ず職員がいる状態を保持できるよう職員の体制を整えている。 | 外部研修があった時には参加すると共に内部研修で身体拘束の及ぼす弊害について学び、周知に努めている。リビングには必ず職員がいる体制を整え、利用者の安全を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての研修会に参加し、その内容を職員会議で報告したり、内部研修を行っている。又、入居者の身体等に異常がみられる場合等は、その原因を検討している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度の研修会に参加し、その内容を職員会議で報告している。又、必要と思われるご家族には、必要性を説明し活用するよう支援を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居される時に、入居者及びご家族に契約書や重要事項説明書等の文章を見ながら説明を行い理解を得ている。又、入居された後でも、疑問等があった場合はいつでも対応している。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会者の記録用紙に要望等を記入するスペースを設けたり、意見箱も設置し匿名での記入もできるようにしている。面会時に、なるべく職員がご家族と雑談して、話しやすい関係を築くようにしている。ご家族から意見や希望があった場合は、職員会議等で話し合いご家族の意向に沿うようにしている。 | 家族の面会時にはその都度、様子を伝え何でも言って貰える関係を築いている。家族の参加を得た焼き肉家族会や教育大学吹奏楽コンサートを実施し親睦を図っている。月に一度、介護担当者、看護師、計画作成担当者による手紙を添えた個別のホームだよりを送付している。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回職員会議を行っている。その時に意見や提案を発言できるようにしている。又、日常的に色々な話をしながら、言いやすい関係を築くようにしている。必要な事項については、改善するようにしている。 | 毎月職員会議を開催し、職員の意見や要望を聞く機会としている。会議の中で内部研修を実施し職員育成に努めている。職員の状況に応じ個人面談をし、職場環境整備等に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人役員が所長として、日々の職員の努力や実績、勤務状況を把握している。又、上級資格を受験したり、研修に参加したりする場合には、シフトを考慮し参加しやすくしている。さらに、休憩時間も通常時には必ず取れるようになっていて、有給休暇も交代で取れるようになっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介助方法について、職員間で不安事項と思われることは、職員会議で研修を行っている。又、外部との研修を受ける場合は、シフトを調整しなるべく研修を受けるよう努めている。職員は年に1回以上何らかの外部研修を受けるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 北海道グループホーム協議会に加盟しており、道北ブロック・地域包括支援センターにおいて開催される講習会等に参加し、地域の同業者との交流を図っている。以前管理者が、地域包括支援センターの研修委員になり地域との関係を築いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が入所を希望されている場合等は、入所前に何度かご自宅を訪問し、お話を聞く機会を設けたり、関連するサービス業者と連携を図ったりしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所を希望された時点で、ご本人の状態やご家族の状況をよく聞いて、ご家族の事実確認や感情について知ろうとする姿勢に心掛けている。ご家族が病気等でご本人とかかわりを持つことが困難な場合もあり、そのような時はあまりご家族に負担のかからないような連絡方法をとっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族の訴えが必ずしもご本人の思いや気持ちと同一ではないことがあるので、かかりつけ医や入所前に利用していたサービス機関と連携を図り、他のサービスを利用するよう勧めたり、居宅介護支援事業者を紹介したこともある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と一緒に洗濯物を干したりたんだり、お裁縫の仕事をされていた方には雑巾縫いや繕いものをしていただいた事もある。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族に率直に困っていることを相談し、入所前に対応していた方法を聞いたり、一緒に解決方法を考えたりしている。帰宅願望が強く表れた入所者の方には、ご家族と相談して一時帰宅をし、ご自宅で過ごせるよう送迎もしている。又、ご家族来所時には、ご家族ができる介助についてはご家族にさせていただけるよう対応している。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ドライブレクリエーション等でご本人の自宅近くまで行ったり、お盆には一緒にお寺参りに行ったこともある。入所前にカラオケ教室に通っていた方には、入所後もカラオケ教室の送迎介助をしたこともある。又、居室にご家族の写真を飾ったり、本人が好きだった品物を置いたりしている。 | 以前は町内の理美容店に出掛けたりと希望に沿った支援に努めていた。利用者の高齢化で馴染みの場への外出機会が少なくなっている状況があるが、親戚が訪ねて来た時等は歓迎し、利用者のこれまでの関わりを大切にされた支援に取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リビングでの席の配置を、状況に合わせて席替えをしている。ラジオ体操や歌の時間等で、入居者同士で関わりあえるようにしている。相手の立場を理解できるように間に入ったりしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所される方のご家族の依頼により希望する事業所を紹介したり、郵便物が届いた場合は伺って様子を聞いたりしている。他の事業所に移った方について、その事業所から問い合わせがあった場合にはご家族に確認をしてから相談に乗っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所時に生活歴等必要な情報をお聞きし活用している。又、入所者の希望や意向を職員が直接聞いたり、感じ取った時、他の職員にも伝え、日々の介助に反映するように努めている。 | 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、利用契約時の生活歴や、日常の会話、ゆったりと寛いでいる等時に把握し、職員が情報共有して支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前にご本人及びご家族より、生活歴等をお聞きしている。又、普段の会話の中から聞いた事項については、他の職員にもわかるよう記録用紙を用意している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 起床・就寝時間、食事を摂取した時間や量、一日の過ごし方などを記録に残し、申し送りに検討し総合的に把握するように努めている。問題点がみられる場合は、職員会議で意見を出し合い、改善策を施行している。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月アセスメント・モニタリングを行い、職員会議にて全員で課題について話し合っている。介護計画については、介護支援専門員がご家族や担当者と話し合い、それぞれの意見を反映している。又、福祉用具や必要物品についても、職員間で話し合い必要な時にはご家族と相談し最善の方法で用意していただいている。 | 介護計画は利用者の状況や状態に変化がある時に、本人や家族の要望を反映しながら、担当職員のモニタリングを基に会議でカンファレンスを行い見直しを行っている。個人日誌に短期目標やサービス内容が印刷されており、介護状況やサービス提供の状況が解るよう記録され見直しに役立てており現状に即した介護計画が作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに基づいた個別記録となっており、業務日誌の引継ぎ事項に記入したり、変更事項は別紙に記録し確認印を押すようにして、見落としのないようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご自宅への一時帰宅の送迎を行ったり、帰宅後ホームへ帰ることを拒否された場合迎えに行ったりしている。希望によりお買い物やお寺へのお参り等も行っている。さらに、季節に合わせた行事もその日の天候に合わせて、予定していない時でも行ったりしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の学生との交流を行い実習生の受け入れ、コンサートの開催、小学生の総合学習受け入れをおこなっている。又、近くの公園へお弁当を持って遠足に行ったり、動物園にご家族に協力をしていただき行ったこともある。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前からのかかりつけの医療機関に、ホームの看護師による定期受診のサービスを行っている。その都度担当医と相談したり、又、急変があった場合等相談したりしている。 | 利用者全員のかかりつけ医が協力医となっている。毎月訪問診療を受けている他、2名の看護師が在籍しており適切な健康管理と医療が受けられるよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-----------------------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職場内の看護師には、朝の引継ぎや職員会議等で、情報共有や相談をしている。又、かかりつけ医と密に連携し、通院困難になった場合に備えて往診可能な医療機関を確保している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入所者が入院した場合でも、病院からの連絡先をホームとしており、情報交換している。入院中においても、職員が外向くようにしている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族の意向をかかりつけ医と一緒に確認をしている。かかりつけ医と密に連携し、意向に沿って支援している。必要に応じて訪問看護事業所に協力していただき、ターミナルケアを行っている。 | 重度化した場合や終末期の対応については、利用契約時に「グループホーム愛あいにおける看取りに関する指針」で説明し理解を得ている。対応が必要になった時点で更に看取りに関する対応について説明し、家族、医療機関の連携で取り組む事としている。事業所としての研修にも取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急マニュアルを作成している。消防署職員による講習会に職員全員が参加するようにしている。そこで、応急手当や初期対応の訓練を行っている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 今年度は年2回の避難訓練を予定し、7月に夜間想定での通報訓練を行った。2回目は1月に消防職員立ち合いで夜間想定での避難誘導訓練を行う予定でいる。 | 年2回、夜間想定で避難訓練を実施している。町内会長と協議を行い避難場所として町内会館を使用させていただき許可を得ている。現在、市指導監査課からの水害等の避難確保計画書を作成している。 | 現在作成中の計画を含め火災以外のその他の災害対策の実施を期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人ひとりに合わせた、安心するような会話や言葉かけを心掛けている。記録等個人情報もなるべく目につかない所に保管している。 | 利用者一人ひとりの人格や誇りを損ねないよう会話や言葉遣いに配慮している他、介護で羞恥心が起きないように自室へ誘導する等配慮した対応に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | テレビ番組で食べたいものがあつたり、雑誌を見て食べたくなくなった場合等、食事やおやつに取り入れれたりしている。又、余暇の過ごし方を好みに合わせている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や就寝・食事等その方の生活リズムに合わせて、提供するようにしている。会話や生活のペースを把握し、対応するようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節毎に洋服を入れ替えたり、洋服や下着の購入についても職員同行で買い物に出かけたりしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の誕生日や日常においても食事の希望をとり入れた献立にしたりしている。又、菜園で収穫したお野菜を食事に使用したりしている。下膳等、それぞれの能力に合わせて役割としている。 | 献立は調理担当者が1カ月単位で利用者の好みや要望を考慮しながら作成し、高齢者ハウスと一緒に調理しており、配膳や下膳を利用者の役割として一緒に取り組んでいる。誕生日には、希望を取り入れる様になっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量については、確認し記録をしている。ご本人の状態に合わせて、きざみやとろみ等の食事形態にしている。ほうじ茶を寒天ゼリーにして水分補給したりしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを、ご本人の状態に合わせて行っている。必要な場合は訪問歯科を利用して、歯科医師にケアの確認をし、指導していただき行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者それぞれの排泄パターンを、チェック表を用いて、それぞれの時間に応じてなるべくトイレにて排泄できるように、こまめに誘導し介助を行っている。 | 利用者一人ひとりの排泄記録をつけパターンやサインを把握して、トイレでの排泄が出来る様に誘導している。また、便秘に配慮して食事や飲み物、運動を行いスムーズな排便が出来るよう取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防の為、食事・排泄の確認記録を行っている。食材料には、なるべく食物繊維の含まれている材料を使用している。又、お天気の良い日には、お散歩に出かけるようにしている。また、かかりつけ医と相談のうえ、薬の調整を行うなどして排便コントロールをしている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | バイタルの測定を行い、ご本人より体調の様子を聞いたりして、入浴のタイミングを考慮している。状況に応じて、シャワー浴や清拭の対応もしている。入浴は、脱衣から入浴・着衣まで一人ひとり介助を行い、ご本人のペースに合わせている。 | 入浴は週2回を基本として、その日の状況や状態で支援している。困難な利用者には無理をしないで様子を伺い、他の職員が声掛けを行う等工夫をして取り組んでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室には畳スペースがあり、布団で眠られていた方は、布団で休めるようになっていく。日中、リビングで小上がりに横になれるようになっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書等を、職員がいつでも確認できるようにしている。又、薬剤師と連携し、助言を受けている。施設内の看護職員より、変更等があった場合は説明を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人の出来る事や出来そうな事を見極めたり、ご本人からの希望を聞いたりして、若いころの職業や趣味をいかした役割や楽しみを取り入れている。菜園や花壇の作業・洗濯物たたみ・雑巾縫い・編み物等、冬期間は職員と一緒に除雪を行った方もいた。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 夏の期間ではできるだけ天気の良い日にはお散歩に出かけたりしている。希望がある場合は、お買い物にスーパーへお連れしたり、ご自宅への一時帰宅の送迎や、お盆のお寺参りにお連れしたりして、希望される場所へ出かけるようにしている。ご家族に協力いただいて動物園に出かけたこともある。 | 利用者の高齢化に伴い皆揃っての外出が難しくなっているが、個別に買い物に出掛けている。天候や体調に配慮して、事業所前庭で日光浴をしたりご飯を食べたり、町内を散歩し花畑を見せて貰ったりと気分転換を図っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望される方には、高額でない額のお金を所持していただいて、買い物時等、ご本人の希望する物品を購入できるよう介助を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は子機を利用し、希望された時には居室で利用したり、携帯電話を持っていて使用している方もいる。また、手紙についても、希望される時には代筆している。地方のご家族には、毎月のお便りを郵送してご本人の様子をお知らせしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは、天窓から日が入るようになっていて、リビング全体が明るくなっている。又、小上がりで腰かけたり、横になって休めるようになっている。窓からは菜園が見えるようになっている。季節毎の楽しみを持っていただいている。トイレもそれぞれの居室から遠くない場所2か所に4個あり、トイレ待ちで失禁することはない。入居者の方が入所前に制作した作品も共有空間に飾ったりしている。 | リビングには小上りや押し入れが設えてあり、温度湿度に注意を払い、加湿器で調節している。4か所あるトイレや浴室も清潔に保たれている。リビングや廊下には利用者の写真や季節の飾りつけがされて、家庭的で楽しい雰囲気となっており、利用者のはのんびり、ゆったりと過ごしている様子が伺われる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにある小上がりの周りには、カーテンで目隠しになっている。廊下の端にソファを置き、共有空間にいても一人になれる空間を作っている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所の際には入所のために新しいものを購入するのではなく、なるべく使い慣れたものを持ち込んでいただくように促している。又、居室には畳スペースがあり、布団を敷いて休めるようになっている。ご家族の写真を置いたり、ご本人が好んでいた物を居室に飾っている。 | 居室には洗面台とクローゼットが設置されている。畳スペースがあり、希望で布団を敷いて休むことが出来る様になっている。利用者は使い慣れた家具や好みの物を飾り、居心地よく過ごせる部屋作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内はバリアフリーになっていて、廊下・トイレ・お風呂等に手摺を設置している。廊下の幅も広めにし、車椅子の方も自走できるようになっている。居室の入り口には、名前の札を掛けてあり、トイレの表示も見やすいように大きな案内板となっている。 | | |